

# むらさきそう

西東京市立田無第一中学校  
校長 辻 康一

(住所) 西東京市南町6-9-37

(電話) 042-462-2811

URL <https://www.nishitokyo.ed.jp/j-tanashi1/>



## スタートには「ヨーイ」が必要

今年度も、残すところは、あとわずかになりました。この一年を振り返ってみて、どうですか？ 昨年の今頃と比べて、きっと自分の成長が感じられるのではないのでしょうか。4月からは、それぞれが新しいステージに立って歩き始めることになります。その準備はできていますか？

100m 走をイメージしてください。スターターが「位置について」と言った後で、「ヨーイ」と声をかけますね。国際大会でも「On your marks(オン・ユア・マークス)」「Set(セット)」という声がかかります。これは、当たり前のように行われていますが、この「ヨーイ」がとても大切なことです。なぜなら、何の声もかからずに、いきなりピストルの号砲が鳴ったら、全力でスタートすることはできないからです。ピストルが鳴る瞬間に最大の瞬発力で飛び出すにはそのための『準備』が必要です。準備ができていない状態では、ピストルが鳴ってから準備を始め、体のすみずみまで力をいき渡らせてスタートブロックを蹴って飛び出すまでに時間がかかってしまい、よいタイムを出すことはできません。

これは100m 走の話ですが、どんな動作・行為についても準備は必要です。ジャンプをするためには膝を折って上体がかがめなければいけません。ラケットを振るにはテイクバックが欠かせません。あることをしようと思ったら、そのための準備の動作が必要になるのです。この準備を怠ると、よいスタートが切れませんし、よいジャンプもできません。よいパフォーマンスを発揮するためには、よい準備をすることが大切なのです。

そういう意味では、この春休みは、次のスタートを切るための大切な『準備』の期間でもあります。「新しい場所で頑張るぞ」という心の準備はもちろん大事ですが、その他にも具体的に準備できるものはないのでしょうか？ これまでの復習や苦手な教科の学び直しという学習の分野、また、学用品の不足を補う物品の購入など、4月から全力でスタートが切れる準備を丁寧に行ってください。

この一年、行事に取り組む真剣な態度はもちろん、普段の学校生活のふとした拍子に、みなさんの成長を感じてきました。現在のパナソニックという会社を作った松下幸之助さんは次のようなことを述べています。「春・夏・秋・冬と同じことの繰り返しのように見えるかもしれないが、樹々は一回り大きくなっている。毎日同じようなことの繰り返しの思えるが、昨日よりも今日の方が賢くなっている」

最初に述べたように、昨年の自分と今の自分を比べてみてください。スピードに違いはあれ、人はだれもが着実に成長しています。次の一年が、またみなさんを一回り大きくさせる時間になることを期待しています。

## 【IJ 学級】多摩特研 劇と音楽の会（2月6日）

2月6日に、IJ 学級では今年度最後の行事となる、多摩特研「劇と音楽の会」に参加しました。I組は「風の通り道」、J組は「上を向いて歩こう」をハンドベルで演奏したほか、最後は合唱コンクールでも披露した「あとひとつ」を全員で合唱しました。練習では息が合わず、まとまりがなかった演奏も、次第に全員の気持ちが一つになり、本番ではとても素晴らしい演奏を披露することができました。3年生にとっては最後の「劇と音楽の会」でしたが、これまで共に過ごしてきた仲間とのかけがえのない思い出となりました。



## 【1年生】スキー教室（2月1日～2月3日）

2月1日～2月3日に、2泊3日で長野県白樺湖へスキー教室に行ってきました。初めてスキーに挑戦する生徒も多く、最初は慣れない雪や靴、装具、環境に戸惑う様子も見られました。インストラクターの先生方の丁寧な指導や仲間同士の励まし合いにより、次第に上達していきました。滑っては転び、そのたびに起き上がり、少しずつ滑れるようになっていきました。慣れないことにも何度も粘り強くチャレンジしていく姿がとても逞しく見えました。最終日の3日目には全員がリフトに乗り、自信をもって滑る姿がたくさん見られました。

宿舎では、仲間と協力して行動することや時間を守ることなど、集団生活の大切さを学ぶことができました。スキー教室を通して、得た経験や仲間との絆やルールを守ることなど、これからの学校生活に生かし、さらに成長してくれることを期待しています。



## 【全学年】校内展示会（3月）

校内展示会では、この1年間の学習の成果である数々の作品が展示されました。各階の廊下や広場、教室の壁には、生徒一人一人の個性あふれる作品が並び、学校全体がとても明るい雰囲気に包まれていました。自分の学年だけでなく、違う学年の作品を見ることで、さまざまな表現や考え方に触れることができました。作品を見て、新しい発見もあり、感性を磨く良い機会となりました。これからも互いの良さを認め合い、学校全体で成長していけるようにしていきます。

